

読売新聞 きょう（7月25日）のイチ押し

1面・社会面など 高藤「金」 渡名喜「銀」

東京五輪の第2日。柔道では男子60kg級の高藤直寿（たかとう・なおひさ）選手が優勝、女子48kg級の渡名喜風雨（となき・ふうな）選手が準優勝しました。高藤選手は今大会の日本選手団の金メダル第1号です。

- ★ 日本の五輪での通算メダル獲得数は夏季・冬季両大会で計501個となりました。渡名喜選手の銀メダルが500個目です。
- ★ 高藤選手には、「付き人」として支えてくれた1学年上の先輩がいます。2人で安定感のある柔道を突き詰め、今大会も我慢強く戦って勝ち抜きました。優勝を決めた後は抱き合って喜びを分かち合いました。
- ★ この日は波乱もありました。体操男子でロンドン、リオデジャネイロ両大会の個人総合を制し、今大会は種目別の鉄棒に絞って出場した内村航平選手と、競泳男子400m個人メドレーでリオ大会銅メダルの瀬戸大也選手が、予選で敗退しました。

第3社会面 美帆の命 絵本に吹き込む 相模原殺傷あす5年

相模原市の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件から26日で5年となります。犠牲者の中で唯一、実名が明かされた美帆さんの母親が、近況や胸の内を本紙の単独インタビューで語りました。

- ★ 事件では元職員の植松聖死刑囚が刃物を持って施設に侵入し、入所者19人を殺害、職員2人を含む26人に重軽傷を負わせました。美帆さんは19歳で命を奪われました。
- ★ 母親は、昨年秋に福祉関係者に頼まれて鳥取県内で講演したといった近況に触れたほか、「みんなが忘れないでいてくれるように」と、美帆さんについての絵本の制作を考えていると語りました。

他紙と比べて

東京五輪は競技が本格的に始まりました。本紙の五輪特別面のうち、「一瞬」と題したページ（22面）では、アスリートたちが躍動する瞬間を一枚の写真に切り抜いてみせます。本日はブラジルのビーチバレー選手が空中でボールをはじき返し、笑顔を見せる「一瞬」をとらえました。